

第 1 章

概 要

注) 単位未満は四捨五入しているので、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第1 人口動態の概要

青森県の令和5年の出生、死亡、自然増減、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりである。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和5年	令和4年	対前年比	令和5年	令和4年	対前年比	令和5年	令和4年
出生	5,696	5,985	△ 289	4.8	5.0	△ 0.2	1° 32' 17"	1° 27' 49"
死亡	20,835	20,117	718	17.7	16.8	0.9	25' 14"	26' 08"
乳児死亡	12	9	3	2.1	1.5	0.6	730° 00' 00"	973° 20' 00"
新生児死亡	4	4	0	0.7	0.7	0.0	2190° 00' 00"	2190° 00' 00"
自然増減	△ 15,139	△ 14,132	△ 1,007	△ 12.9	△ 11.8	△ 1.1	…	…
死産	141	158	△ 17	24.2	25.7	△ 1.5	62° 07' 40"	55° 26' 35"
自然死産	66	66	0	11.3	10.7	0.6	132° 43' 38"	132° 43' 38"
人工死産	75	92	△ 17	12.8	15.0	△ 2.2	116° 48' 00"	95° 13' 03"
周産期死亡	14	19	△ 5	2.5	3.2	△ 0.7	625° 42' 51"	461° 03' 09"
妊娠満22週以後の死産	11	15	△ 4	1.9	2.5	△ 0.6	796° 21' 49"	584° 00' 00"
早期新生児死亡	3	4	△ 1	0.5	0.7	△ 0.2	2920° 00' 00"	2190° 00' 00"
婚姻	3,326	3,656	△ 330	2.8	3.1	△ 0.3	2° 38' 02"	2° 23' 46"
離婚	1,665	1,664	1	1.41	1.39	0.02	5° 15' 41"	5° 15' 52"

区分	令和5年	令和4年
合計特殊出生率	1.23	1.24

（全国）

区分	実数			率			平均発生間隔	
	令和5年	令和4年	対前年比	令和5年	令和4年	対前年比	令和5年	令和4年
出生	727,288	770,759	△ 43,471	6.0	6.3	△ 0.3	00' 43"	00' 41"
死亡	1,576,016	1,569,050	6,966	13.0	12.9	0.1	00' 20"	00' 20"
乳児死亡	1,326	1,356	△ 30	1.8	1.8	0.0	6° 36' 23"	6° 27' 37"
新生児死亡	600	609	△ 9	0.8	0.8	0.0	14° 36' 00"	14° 23' 03"
自然増減	△ 848,728	△ 798,291	△ 50,437	△ 7.0	△ 6.5	△ 0.5	…	…
死産	15,534	15,179	355	20.9	19.3	1.6	33' 50"	34' 38"
自然死産	7,152	7,391	△ 239	9.6	9.4	0.2	1° 13' 29"	1° 11' 07"
人工死産	8,382	7,788	594	11.3	9.9	1.4	1° 02' 42"	1° 07' 29"
周産期死亡	2,404	2,527	△ 123	3.3	3.3	0.0	3° 38' 38"	3° 27' 60"
妊娠満22週以後の死産	1,943	2,061	△ 118	2.7	2.7	0.0	4° 30' 31"	4° 15' 01"
早期新生児死亡	461	466	△ 5	0.6	0.6	0.0	19° 00' 08"	18° 47' 54"
婚姻	474,741	504,930	△ 30,189	3.9	4.1	△ 0.2	01' 06"	01' 02"
離婚	183,814	179,099	4,715	1.52	1.47	0.05	02' 52"	02' 56"

区分	令和5年	令和4年
合計特殊出生率	1.20	1.26

注:1) 青森県の基礎人口は令和5年が1,177,000人、令和4年が1,198,000人である。

注:2) 全国の基礎人口は令和5年が121,193,394人、令和4年が122,030,523人である。

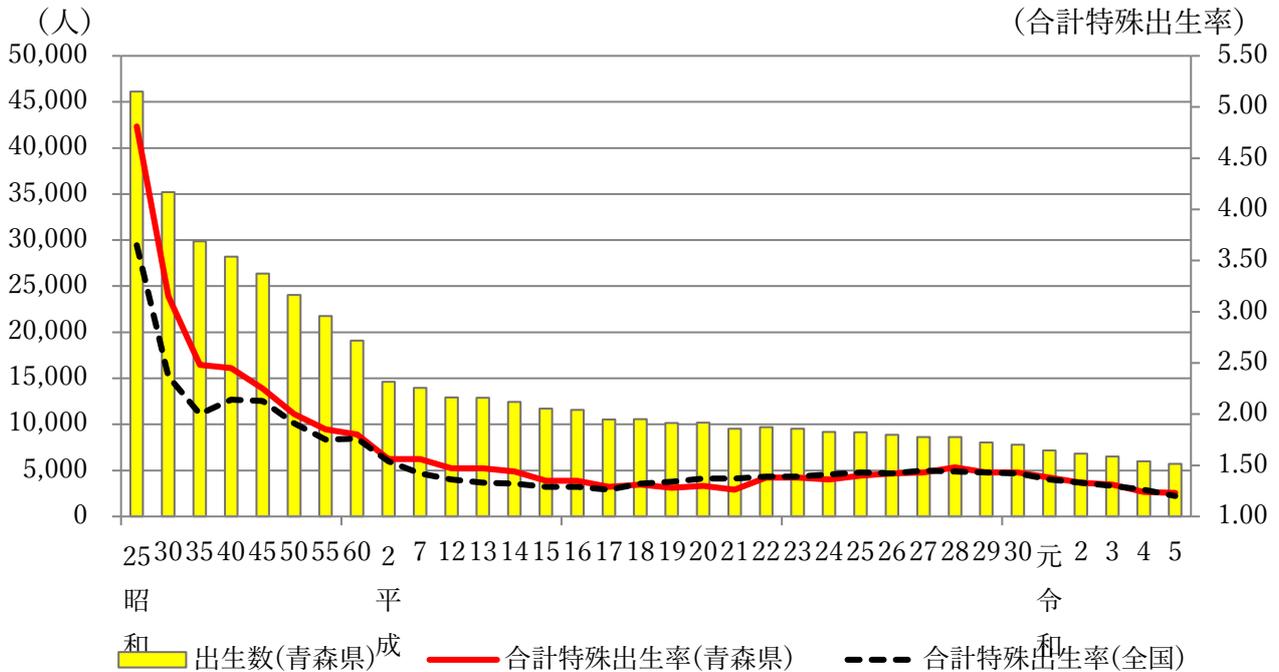
注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

1 出生

(1) 概況及び年次推移

出生数及び合計特殊出生率は、年々減少・低下傾向にあり、令和5年の出生数は5,696人で、前年の5,985人より289人減少し、過去最少となった。また、令和5年の合計特殊出生率は1.23で、前年の1.24を0.01ポイント下回り、全国の1.20を0.03ポイント上回った。(表1、図1)

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



(2) 地域別出生

令和5年の市部の出生数は4,600人、町村部は1,096人であり、出生率(人口千対)は市部が5.0で郡部の4.3を0.7ポイント上回っている。

詳細は第2章第6表に記載されているので、参照されたい。

(3) 出生順位と母の年齢

令和5年に出生した子(死産を除く)が、子の母の何番目の子に該当するかを表す、出生順位別出生数の構成比は、第1子が43.9%、第2子が35.6%、第3子以上が20.4%となっており、第1子と第2子で全体の約8割を占めている。(第2章第8表参照)

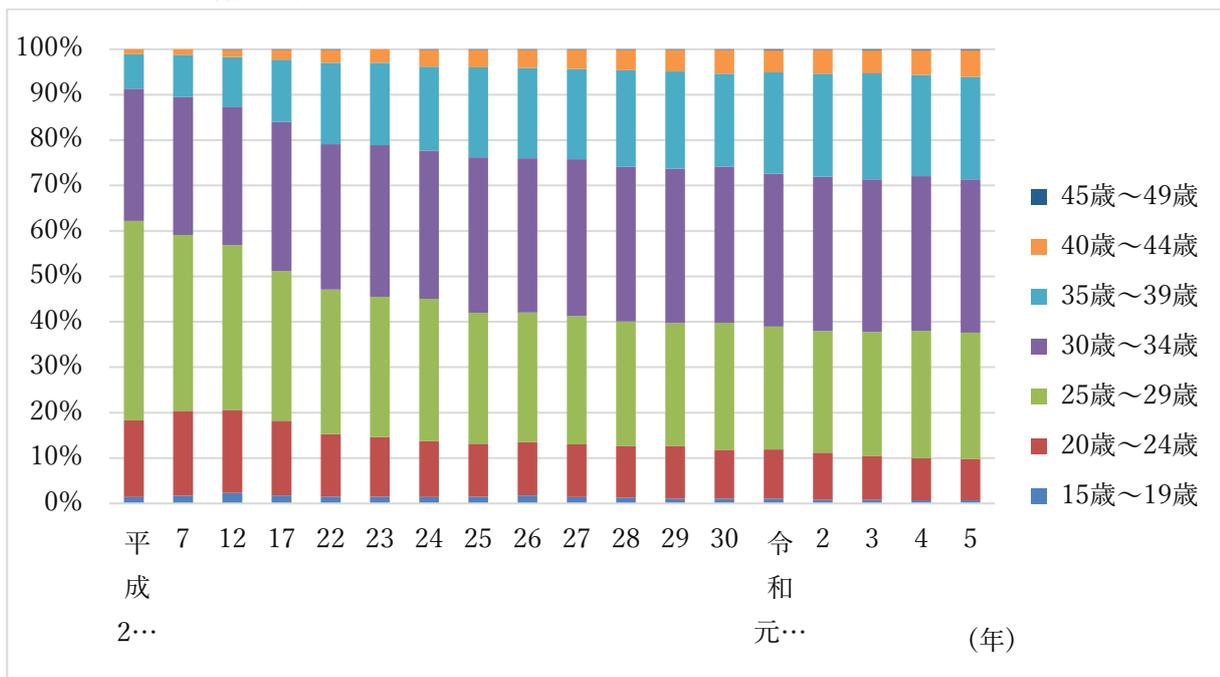
また、令和5年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30歳から34歳が33.7%で最も高く、次いで25歳から29歳が27.8%となっている。(表2)

表2 母の年齢階級別出生の構成比

(単位：%)

母の年齢	平成2年	7	12	17	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元年	2	3	4	5
15歳～19歳	1.4	1.7	2.3	1.8	1.5	1.5	1.4	1.5	1.8	1.4	1.3	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.7	0.7
20歳～24歳	16.9	18.7	18.3	16.4	13.8	13.1	12.3	11.7	11.7	11.6	11.3	11.5	10.7	10.8	10.4	9.7	9.3	9.1
25歳～29歳	43.9	38.7	36.3	33.0	31.8	30.9	31.4	28.8	28.6	28.3	27.5	27.1	28.0	27.1	26.8	27.2	28.1	27.8
30歳～34歳	29.1	30.4	30.5	32.8	32.0	33.4	32.6	34.3	34.0	34.5	34.1	33.9	34.4	33.7	34.0	33.6	34.0	33.7
35歳～39歳	7.7	9.3	10.9	13.7	17.9	18.1	18.5	19.8	19.9	19.9	21.3	21.4	20.4	22.3	22.7	23.3	22.3	22.5
40歳～44歳	1.0	1.2	1.6	2.2	2.9	3.0	3.7	3.9	4.0	4.2	4.5	4.8	5.3	4.9	5.3	5.1	5.5	5.9
45歳～49歳	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2

図2 母の年齢階級別出生の構成比

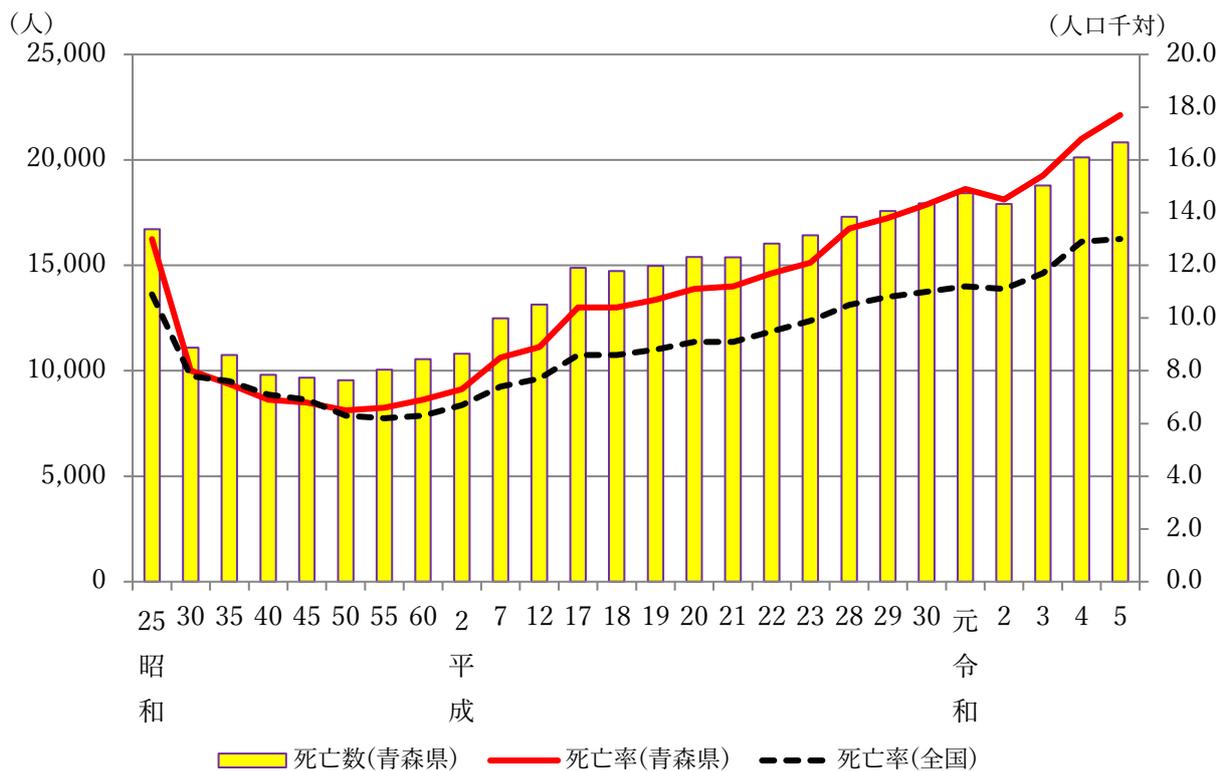


2 死 亡

(1) 概況及び年次推移

死亡数及び死亡率（人口千対）は昭和60年代前半以降、年々増加・上昇傾向にあり、令和5年の死亡数は20,835人で、前年の20,117人より718人増加、死亡率は17.7で、前年の16.8を0.9ポイント上回り、死亡数・死亡率ともに戦後最大となった。また、死亡率は全国の13.0を4.7ポイント上回った。（表1、図3）

図3 死亡数及び死亡率の年次推移



(2) 地域別死亡

令和5年の市部の死亡数は15,438人、町村部は5,397人であり、死亡率（人口千対）は市部が16.6で郡部の21.0を4.4ポイント下回っている。

詳細は第2章第13表に記載されているので、参照されたい。

(3) 主要死因

令和5年の死因第1位は悪性新生物で、死亡数5,051人、死亡率（人口10万対）は421.6となった。第2位は心疾患で、死亡数2,955人、死亡率246.7、第3位は老衰で、死亡数2,222人、死亡率185.5、第4位は脳血管疾患で、死亡数1,486人、死亡率124.0となった。（表3）

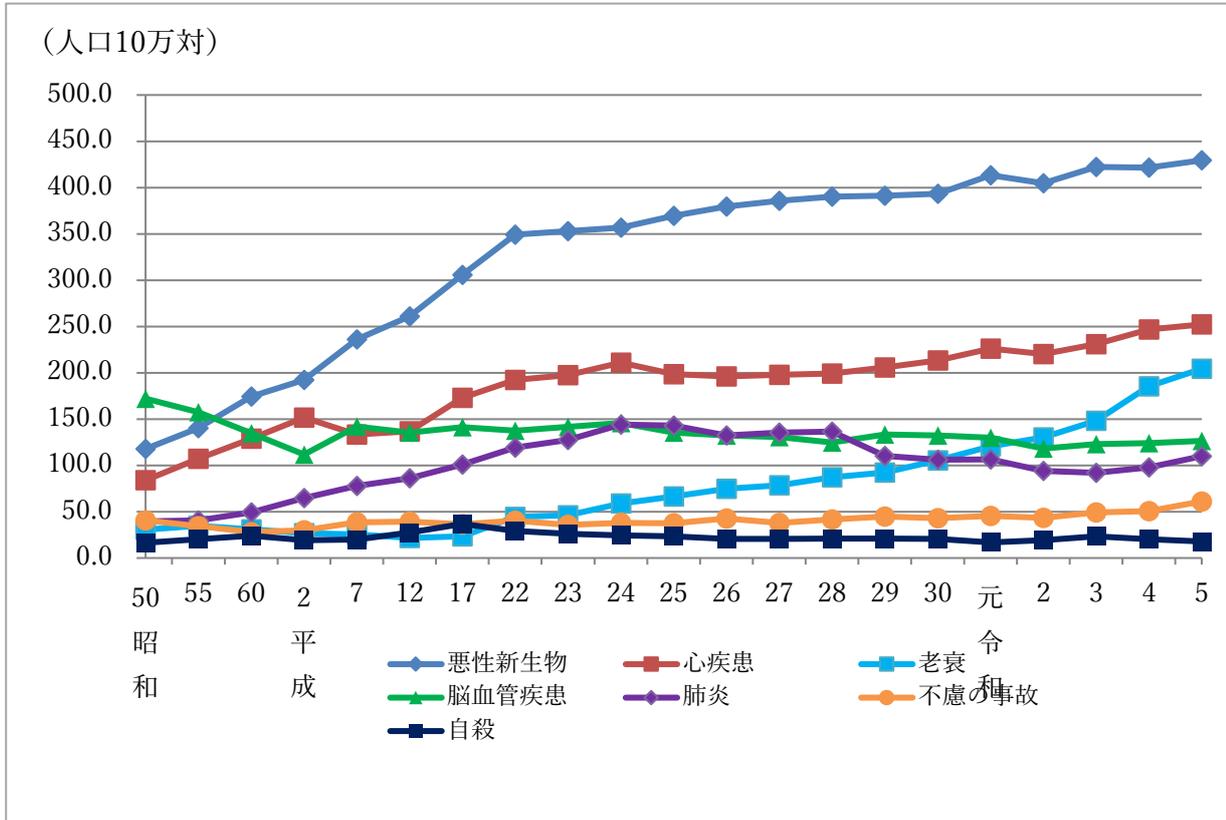
表3 死因順位別死亡数、死亡率（人口10万対）

（前年比較・全国比較）

死 因	青 森 県				全 国	
	令 和 5 年		令 和 4 年		令 和 5 年	
	死 亡 数	率	死 亡 数	率	死 亡 数	率
死 亡 総 数	20,835	1,770.2	20,117	1,679.2	1,576,016	1,300.4
悪 性 新 生 物	5,055	429.5	5,051	421.6	382,504	315.6
心 疾 患	2,977	252.2	2,955	246.7	231,148	190.7
老 衰	2,405	204.3	2,222	185.5	189,919	156.7
脳 血 管 疾 患	1,488	126.4	1,486	124.0	104,553	86.3
肺 炎	1,295	110.0	1,174	98.0	75,753	62.5
不 慮 の 事 故	719	61.1	607	50.7	44,440	36.7
誤 嚥 性 肺 炎	505	42.9	444	37.1	60,190	86.3
ア ル ツ ハ イ マ ー 病	512	43.5	484	40.4	25,453	21.0
血 管 性 及 び 詳 細 不 明 の 認 知 症	454	38.6	442	36.9	24,360	20.0
腎 不 全	480	40.8	510	42.6	30,208	24.9

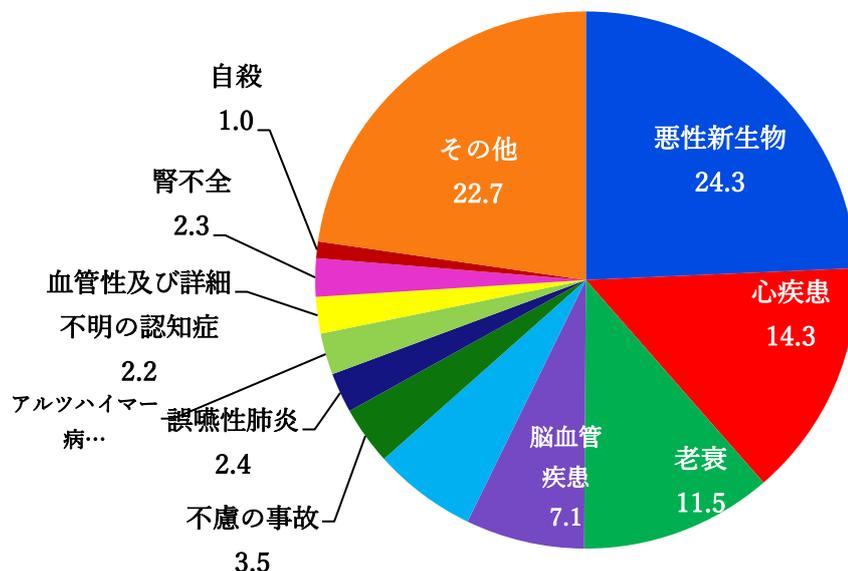
年次推移をみると、概ね平成2年以降「悪性新生物」が死因第1位、「心疾患」が第2位、第3位は「脳血管疾患」又は「肺炎」となっていたが、令和2年以降は3年連続で「老衰」が第3位となった。(図4)

図4 主要死因別死亡率の年次推移



令和5年の死因ごとの構成比をみると、悪性新生物が25.1%、心疾患が14.7%、老衰が11.0%と続き、これら3つの死因で全体の50.8%（前年52.0%）を占めている。(図5)

図5 主な死因の構成比 (%)



令和5年の年代別死因順位をみると、10歳代から20歳代までは、自殺が死因第1位であり、30歳代から80歳代までは、悪性新生物が死因第1位となっている。(表4)

表4 年代別死因順位、実数

年代	総数 (実数)	1位	2位	3位
0～9歳	11	心疾患、先天性奇形、変形及び染色体異常、不慮の事故 2	悪性新生物、その他の新生物、筋骨格系及び結合組織の疾患、周産期に発生した病態、乳幼児突然死症候群 1	0
10～19歳	10	悪性新生物、不慮の事故、自殺 4	その他の新生物、糖尿病、脳血管疾患、肝疾患 1	0
20～29歳	35	自殺 14	不慮の事故 9	悪性新生物 3
30～39歳	66	悪性新生物、自殺 20	不慮の事故 14	心疾患 4
40～49歳	235	悪性新生物 77	心疾患 33	自殺 30
50～59歳	583	悪性新生物 231	心疾患 70	脳血管疾患 64
60～69歳	1,484	悪性新生物 735	心疾患 201	脳血管疾患 100
70～79歳	3,734	悪性新生物 1,559	心疾患 512	脳血管疾患 322
80～89歳	6,577	悪性新生物 1,749	心疾患 1,059	老衰 684
90～99歳	5,385	老衰 1,427	心疾患 1,051	悪性新生物 658
100歳～	368	老衰 207	心疾患 43	肺炎 19

3 乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡

(1) 乳児死亡

令和5年の乳児死亡数は12人で、前年の9人より3人増加した。乳児死亡率（出生千対）は2.1で、前年の1.5を0.6ポイント下回り、全国の1.8を0.3ポイント上回った。（表1、図6）

死亡の原因の内訳をみると、「周産期に発生した病態」、「先天奇形、変形及び染色体異常」が多い。（表5）

図6 乳児死亡数及び乳児死亡率の年次推移

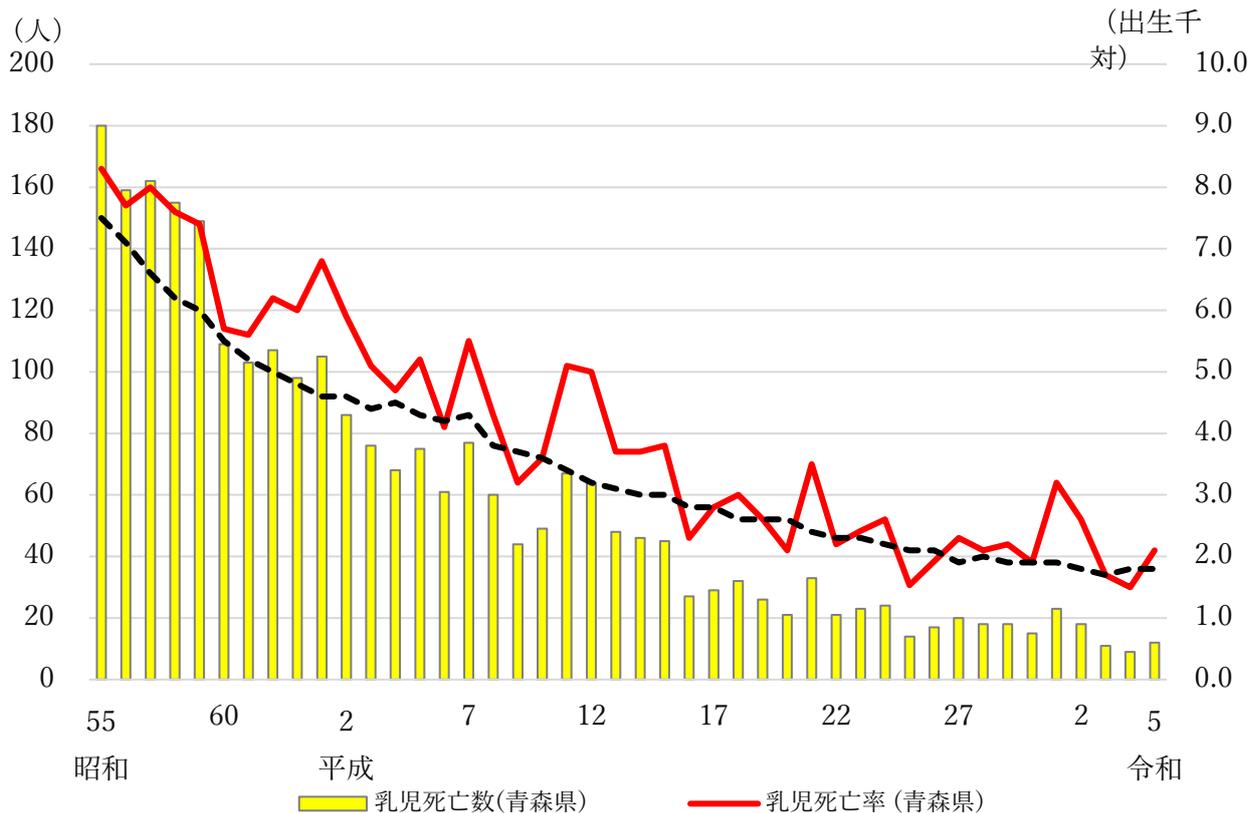


表5 乳児死亡の内訳の年次推移

死亡の内訳	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
総計	20	18	18	15	23	18	11	9	12
周産期に発生した病態	7	6	6	5	12	10	3	1	1
先天奇形、変形及び染色体異常	7	5	7	7	3	5	4	7	2
乳幼児突然死症候群	1	-	-	-	2	1	0	0	1
その他	5	7	5	3	6	2	4	1	8

(2) 新生児死亡

令和5年の新生児死亡数は4人で、前年の4人と同数であった。新生児死亡率（出生千対）は0.7で、前年の0.7と同数であり、全国の0.8を0.1ポイント下回った。（表1、図7）

図7 新生児死亡数及び新生児死亡率の年次推移

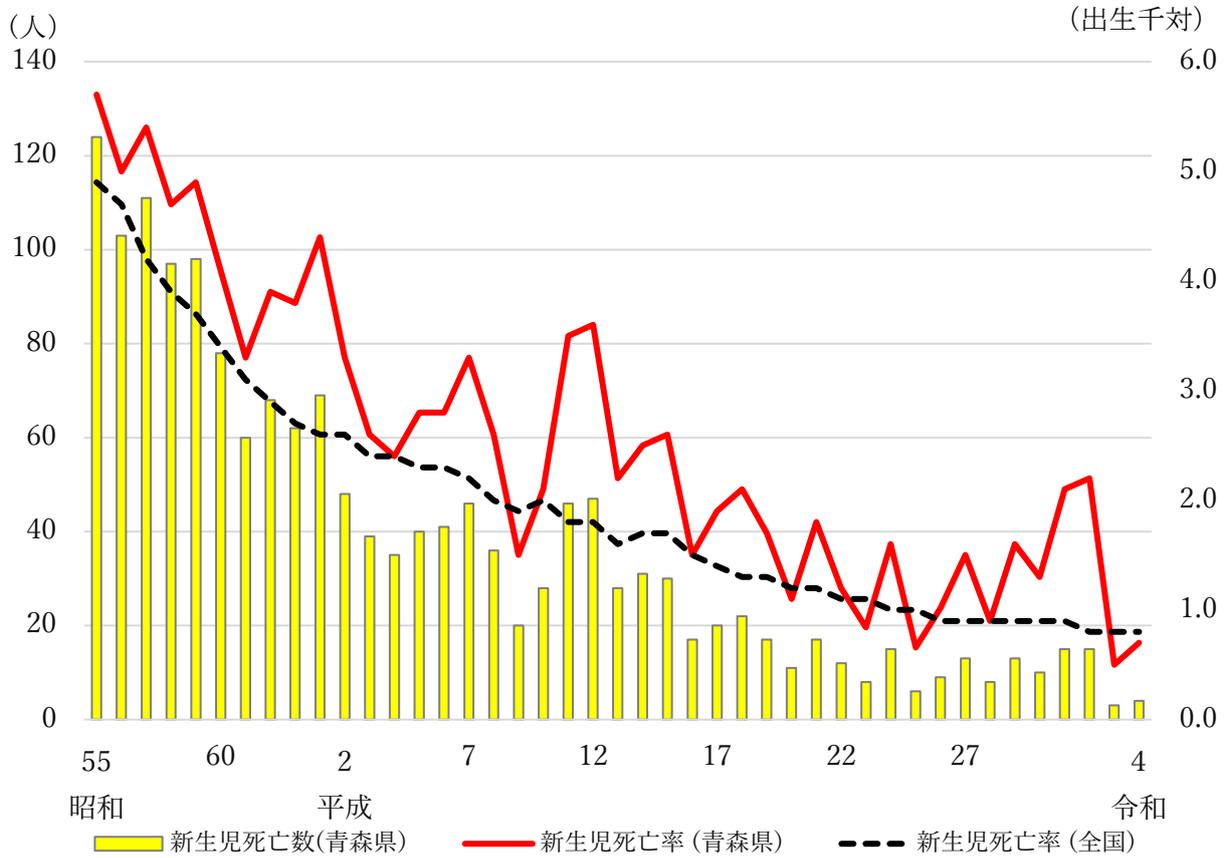


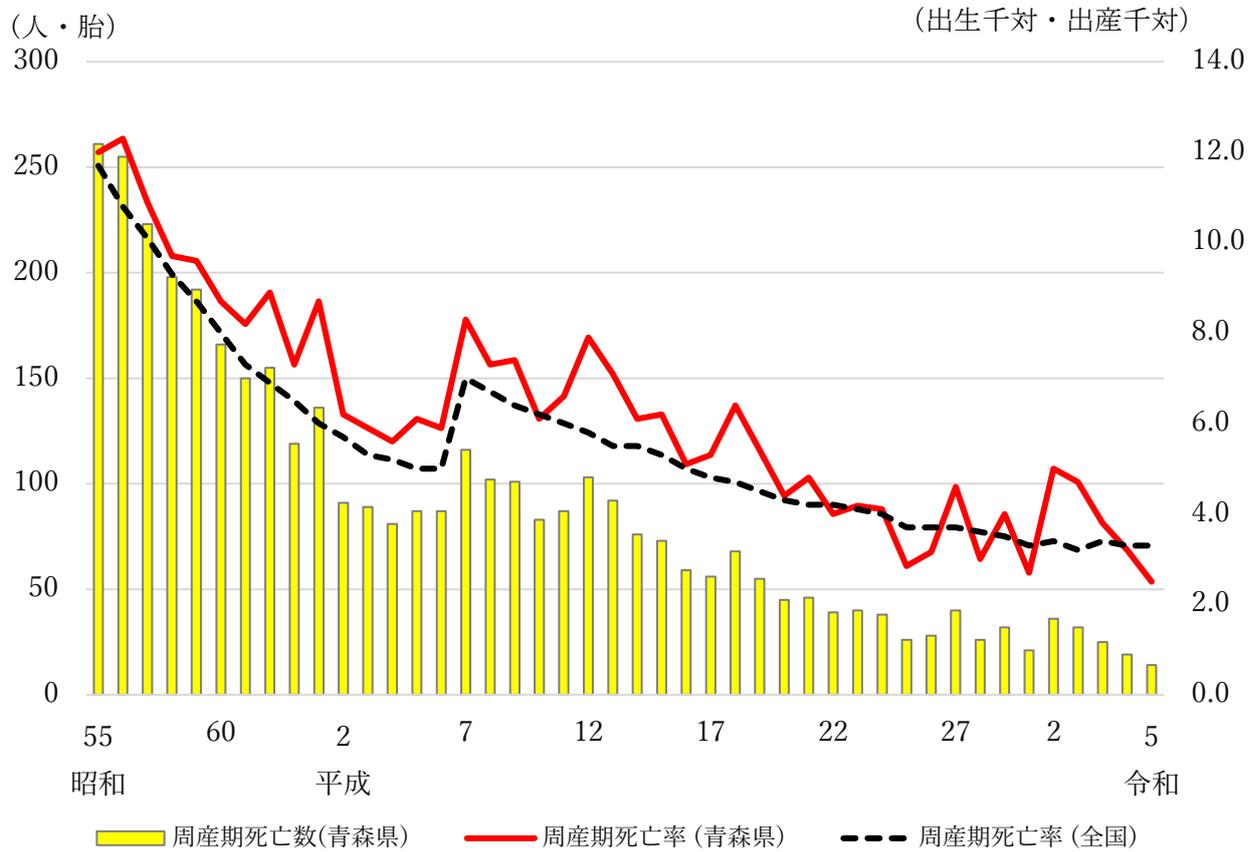
表6 新生児死亡の内訳の年次推移

死因の内訳	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年
総計	13	8	13	10	15	15	3	4	4
周産期に発生した病態	7	6	6	4	12	10	1	1	1
先天奇形、変形及び染色体異常	5	2	4	5	3	5	1	3	1
乳幼児突然死症候群	-	-	-	-	-	-	-	-	1
その他	1	-	3	1	-	-	1	-	1

(3) 周産期死亡

令和5年の周産期死亡数は14件（妊娠満22週以後の死産11胎、早期新生児死亡3人）で、前年の19件（同15胎、同4人）より5件（同4胎減、同1人減）減少した。周産期死亡率（出産（出生+妊娠満22週以後の死産）千対）は2.5で、前年の3.2を0.7ポイント下回り、全国の3.3を0.8ポイント下回った。（表1、図8）

図8 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移



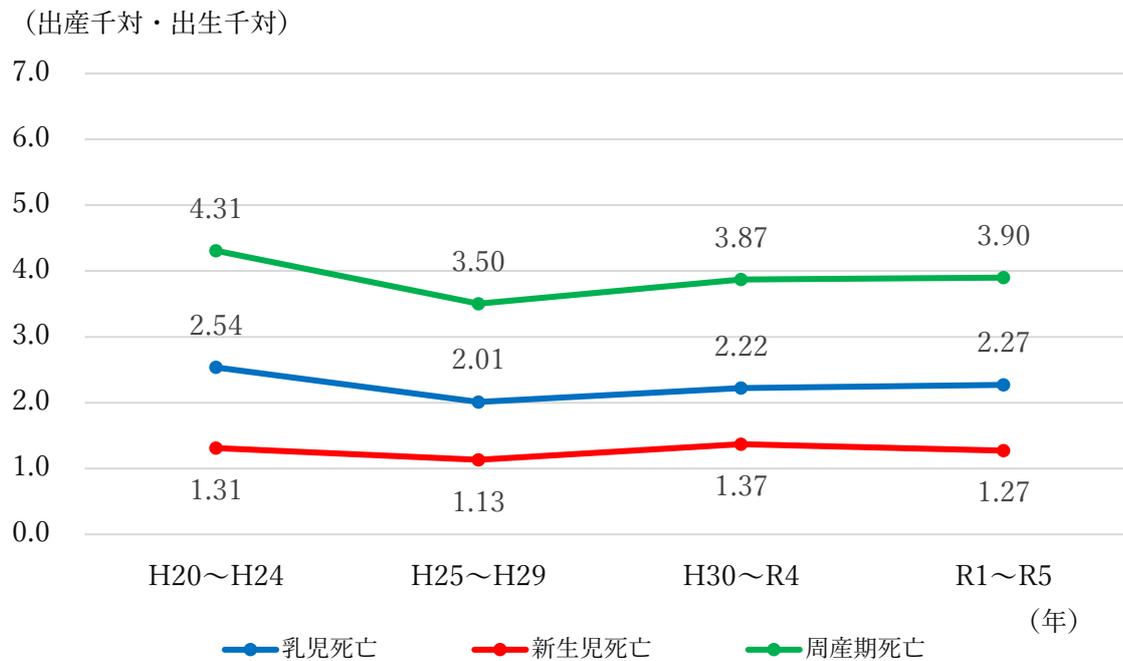
※ 周産期死亡については、死亡数、死亡率の算定方法が平成6年以前と平成7年以降では異なっている。

	死亡数	死亡率
平成6年以前	妊娠満28週以後死産 + 早期新生児	出生千対
平成7年以降	妊娠満22週以後死産 + 早期新生児	出産千対（出生+妊娠満22週以後死産）

(4) 5か年比較

乳児死亡、新生児死亡、周産期死亡とも対象数が少ないため実数1件の増減による死亡率への影響が大きいことから、それぞれの死亡率を5年単位で比較すると、令和元年から令和5年単位では、乳児死亡、新生児死亡及び周産期死亡のいずれについても平成26年から平成30年単位よりも増加した。(図9)

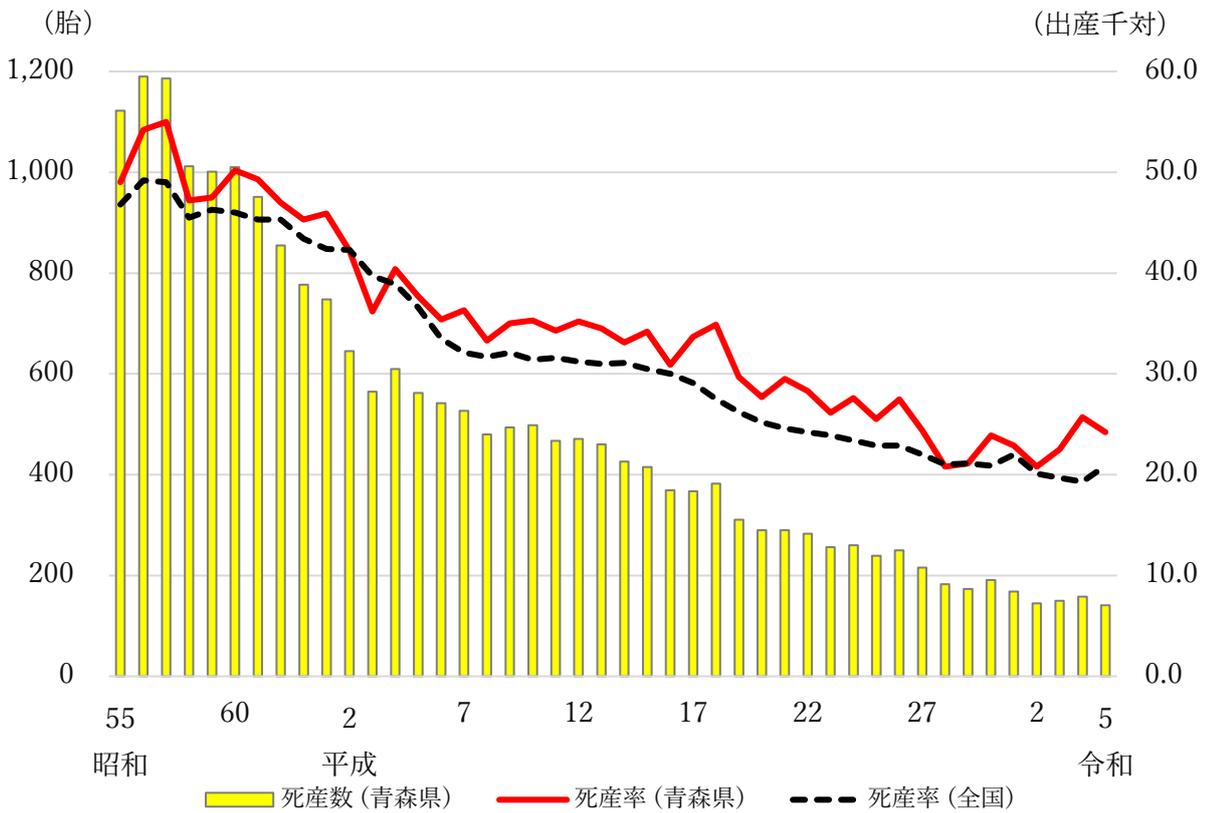
図9 乳児死亡率・新生児死亡率・周産期死亡率の5か年比較(年次推移)



4 死産

死産数及び死産率（出産（出生＋死産）千対）は減少・低下傾向にあるが、令和5年の死産数は141胎（自然死産66胎、人工死産75胎）で、前年の158胎（同66胎、同92胎）より17胎（同前年と同数、同17胎減）現象した。死産率は24.2で、前年の25.7を1.5ポイント下回り、全国の20.9を3.3ポイント上回った。（表1、図10）

図10 死産数及び死産率の年次推移

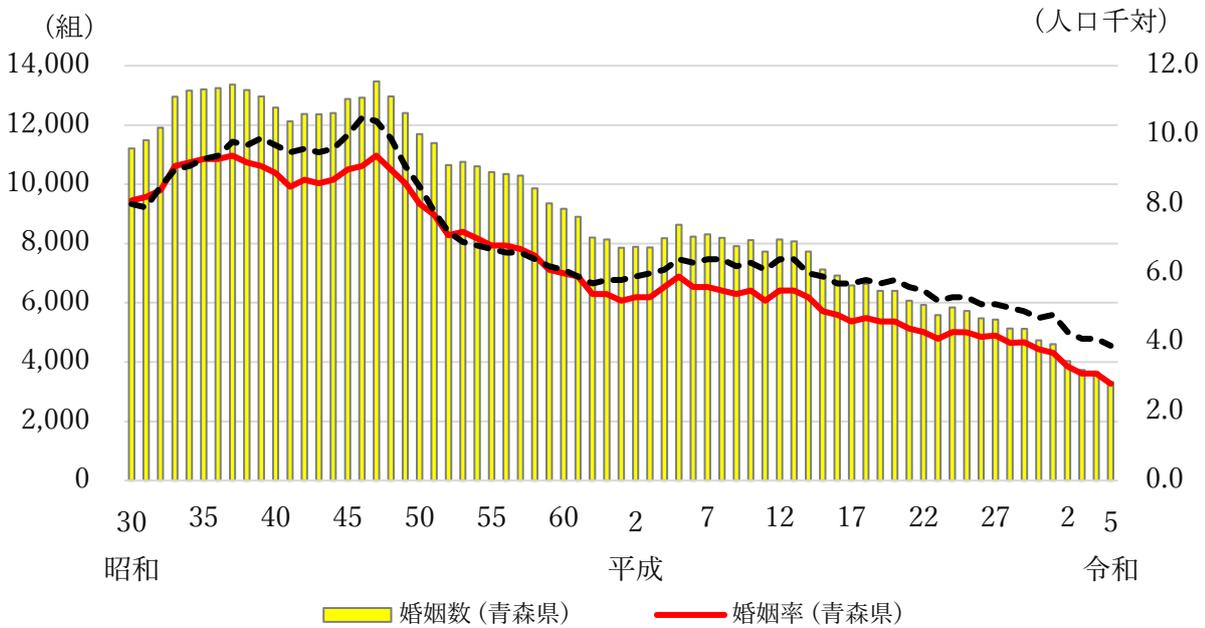


5 婚姻

(1) 概況及び年次推移

婚姻件数及び婚姻率（人口千対）は減少・低下傾向にあり、令和5年の婚姻件数は3,326組で、前年の3,656組より330組減少、婚姻率は2.8で、前年の3.1を0.3ポイント下回り過去最少となった。また、婚姻率は全国の3.9を1.1ポイント下回った。（表1、図11）

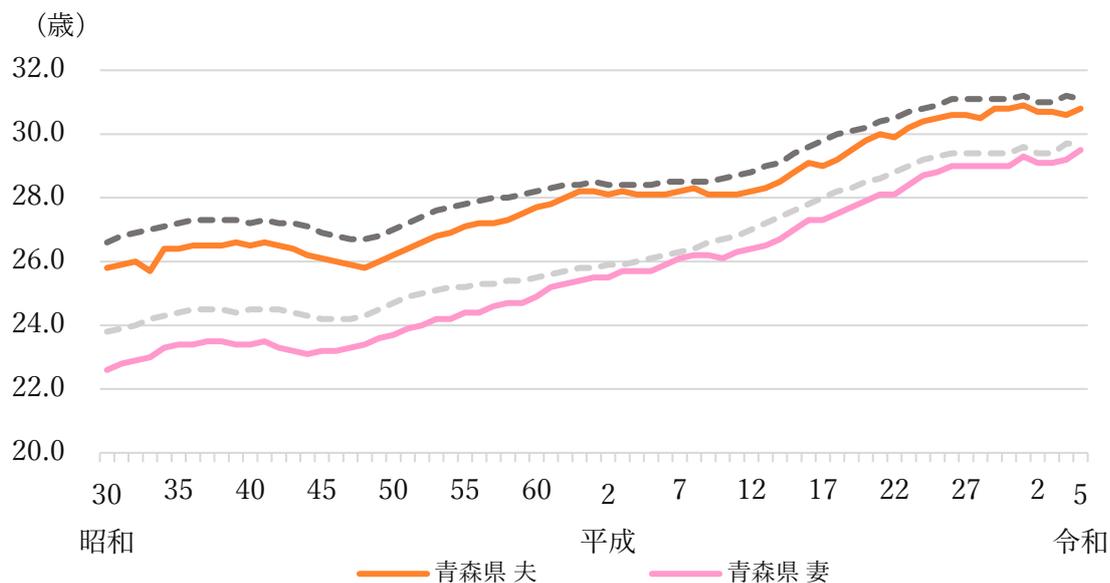
図11 婚姻件数及び婚姻率の年次推移



(2) 平均初婚年齢

平均初婚年齢は男女ともに年々上昇しており、令和4年の平均初婚年齢は、男性が30.8歳（全国31.1歳）、女性が29.5歳（全国29.7歳）で、男性は前年よりも0.2歳、女性は前年よりも0.3歳上回った。（図12）

図12 平均初婚年齢の年次推移

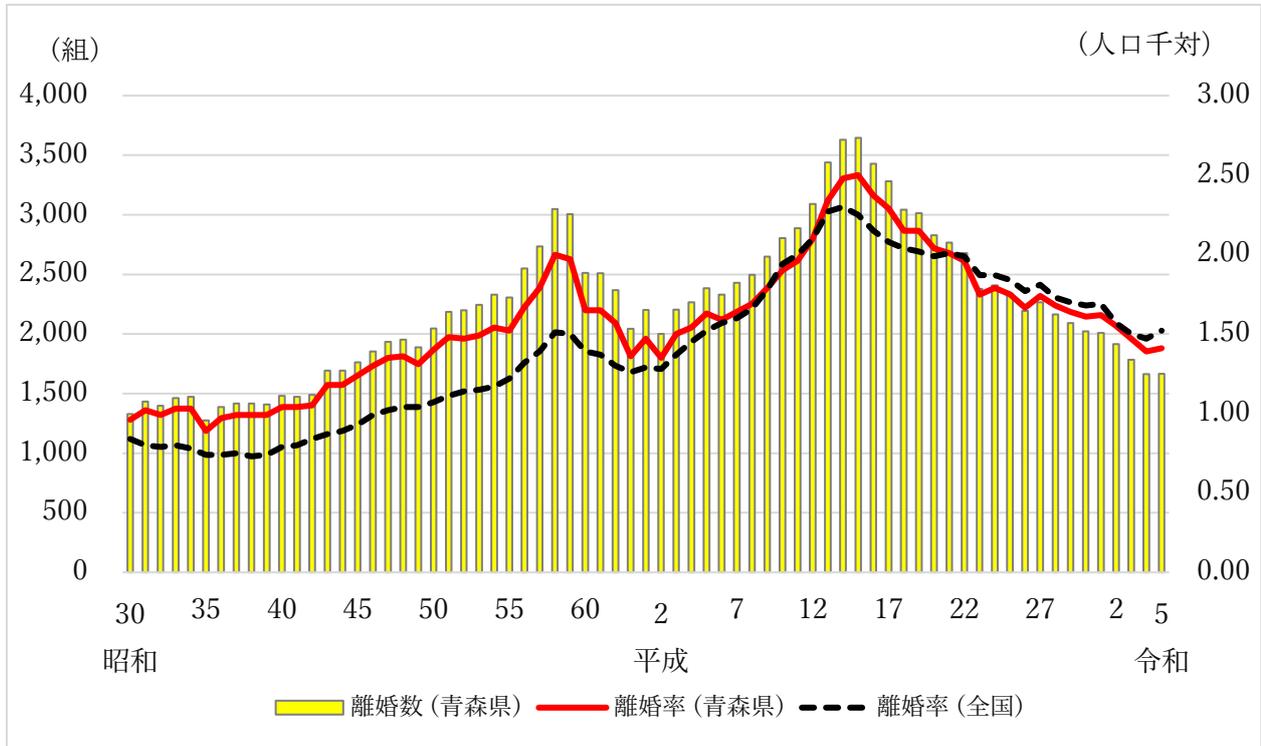


6 離婚

(1) 概況及び年次推移

離婚件数及び離婚率（人口千対）は減少・低下傾向にあり、令和5年の離婚件数は1,665組で、前年の1,664組より1組増加した。離婚率（人口千対）は1.41で、前年の1.39を0.02ポイント上回り、全国の1.52を0.11ポイント上回った。（表1、図13）

図13 離婚数及び離婚率の年次推移



(2) 離婚した夫婦の同居期間

令和5年の離婚件数1,664組のうち、結婚5年未満で離婚した件数の構成比は27.6%で最も多く、次いで20年以上の25.3%、5～10年の19.2%の順となっている。（表7）

表7 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	27年	28年	29年	30年	R1年	2年	3年	4年	5年
0～5年	29.8	32.1	33.2	31.5	31.3	29.8	29.7	27.6	28.5
1年未満	5.8	4.9	6.2	5.6	6.1	4.6	4.5	4.9	4.6
1～2年	7.2	6.4	7.1	6.9	6.9	6.8	7.1	6.3	7.4
2～3年	7.7	6.8	7.4	6.8	6.9	7.3	6.6	6.7	5.8
3～4年	5.8	6.0	6.9	6.1	5.4	5.9	4.9	4.7	6.8
4～5年	5.6	5.0	5.6	6.1	5.9	5.3	6.7	4.9	4.0
5～10年	21.3	19.1	19.0	20.0	19.4	18.2	21.0	19.2	19.2
10～15年	14.3	13.5	12.2	13.3	13.7	12.6	11.7	13.9	12.0
15～20年	11.1	10.6	11.1	11.5	11.4	10.5	9.5	10.4	10.2
20年以上	20.2	21.3	21.3	20.4	22.1	25.3	24.8	25.3	26.2
不詳	3.2	3.4	3.2	3.3	2.1	3.6	3.2	3.6	4.0

第2 医療統計の概要

1 医療施設

(1) 病院

令和5年10月1日現在の病院数は89施設で、前年の90施設から1施設減少した。人口10万対では7.5で、前年の7.5と同数であり、全国の6.5を1.0ポイント上回った。

病院数は、昭和58年の124施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

(2) 一般診療所

令和5年10月1日現在の一般診療所数は850施設で、前年の859施設から9施設減少した。人口10万対では71.8で、前年の71.3から0.5ポイント増加し、全国の84.4を13.1ポイント下回った。

一般診療所のうち、有床診療所は109施設で、前年の117施設から8施設減少し、診療所全体の約12.8%（全国5.4%）となっている。

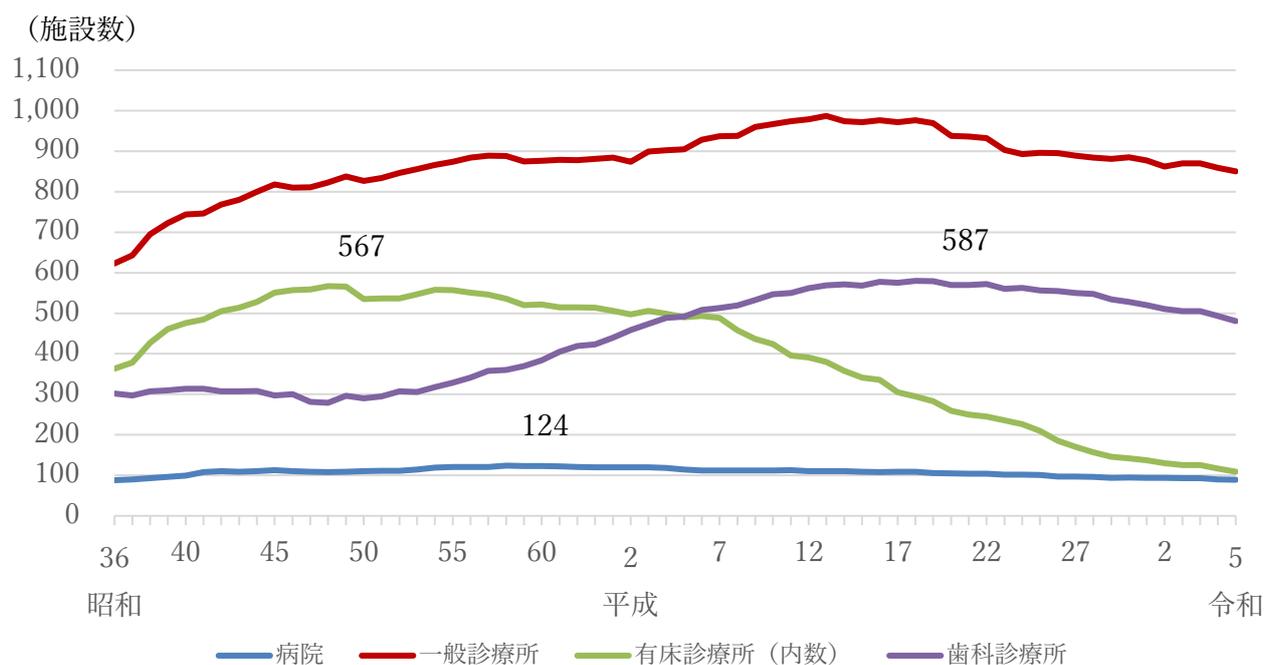
総数は平成13年の987施設、有床診療所は昭和48年の567施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

(3) 歯科診療所

令和5年10月1日現在の歯科診療所数は493施設で、前年の505施設から12施設減少した。人口10万対では40.9で、前年の41.4を0.5ポイント下回り、全国の54.2を13.3ポイント下回った。

歯科診療所数は、平成18年の580施設をピークにその後減少傾向にある。(図1)

図1 医療施設数の年次推移



2 医師・歯科医師・薬剤師

(1) 医師

令和4年12月31日現在の医師数は2,795人であり、前回調査の令和2年(2,773人)から、22人増加している。また、人口10万対では232.1であり、前回(224.0)に比べ、8.1ポイント上回り、全国値である274.7を42.6ポイント下回った。(表1)

表1 医師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分	平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年	4年	
青森県	医師数	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563	2,636	2,639	2,681	2,702	2,712	2,773	2,795
	人口10万対	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1	191.9	195.5	203.0	209.0	214.7	224.0	232.1
全国	医師数	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699	295,049	303,268	311,205	319,480	327,210	339,623	343,275
	人口10万対	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5	230.4	237.8	244.9	251.7	258.8	269.2	274.7

(2) 歯科医師

令和4年12月31日現在の歯科医師数は715人であり、前回調査の令和2年(735人)から、20人減少している。また、人口10万対では59.4であり、前回と同値であり、全国値である84.2を24.8ポイント下回った。(表2)

表2 歯科医師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分	平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年	4年	
青森県	歯科医師数	717	758	757	777	789	781	787	780	762	740	735	715
	人口10万対	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7	56.9	58.3	59.0	58.9	58.6	59.4	59.4
全国	歯科医師数	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426	101,576	102,551	103,972	104,533	104,908	107,443	105,267
	人口10万対	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9	79.3	80.4	81.8	82.4	83.0	85.2	84.2

(3) 薬剤師

令和4年12月31日現在の薬剤師数は2,373人であり、前回調査の令和2年(2,345人)から、28人増加している。また、人口10万対では197.1であり、前回(189.4)に比べ、7.7ポイント上回り、全国値である259.1を62.0ポイント下回った。(表3)

表3 薬剤師数(実数、人口10万対)の年次推移

(単位:人)

区分	平成12年	14年	16年	18年	20年	22年	24年	26年	28年	30年	令和2年	4年	
青森県	薬剤師数	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882	2,012	2,052	2,111	2,210	2,306	2,345	2,373
	人口10万対	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2	146.5	152.0	159.8	170.9	182.6	189.4	197.1
全国	薬剤師数	217,477	229,744	241,369	252,533	267,751	276,517	280,052	288,151	301,323	311,289	321,982	323,690
	人口10万対	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7	215.9	219.6	226.7	237.4	246.2	255.2	259.1